

令和4年度 岐阜市障害者総合支援協議会 第6回専門部会 議事要旨

日時	令和4年11月15日(火) 15:30~17:00
場所	岐阜市役所6-1大会議室
出席者	関係団体 9名
	関係機関 10名
	一般・特定・障害児相談支援事業所 15名
	指定管理、委託事業所 7名
	(合計 41名)

○検討テーマ…障がい者の「親亡き後」のためにできること

障がいのある人や家族にとって、親亡き後の暮らしへの支援が課題となっていることから、障がいのある人や家族が安心して生活を送るために、どのような備えが必要か協議した。

また、現在児童向けに配布している「岐阜市サポートブック」について、障がいのある人の親亡き後を見据えた記入内容についても検討した。

1. はじめに

- ・岐阜市障害者総合支援協議会の概要
- ・第6回専門部会の趣旨や流れについて

2. いぶき福祉会の取り組みについて

障がい者の「親亡き後」のためにできることに関する取り組みとして紹介。(資料1)
エンディングノートと一緒に作ることを通して、「親亡き後」の問題の解決策を考え、誰もが地域で安心して生活できる社会を作ることを目指している。

<意見>

- ・障がいのある人と親両方が認知症になるケースもあり得るため、多くの人が活用できるようにすると良い。まずは、障がいがあることを隠さない世の中にしていく必要がある。
- ・ガバメントクラウドファンディングにより、事業展開できたことに大きな意義があった。これまでの発見を今後の取り組みに活かしていきたい。

3. 岐阜市サポートブック・事前アンケートについて

- ・岐阜市サポートブックについて概要説明
- ・事前アンケートの報告(資料2)

4. グループワーク

親亡き後を見据え、必要と思われる備えや、岐阜市サポートブックに追加して記載すべき内容について5グループに分かれて協議。

<意見>

- 親亡き後を見据え必要と思われる備えに関する意見
 - ・災害時の連携体制の確保が課題になると思われる。
 - ・災害時の電源の確保が必要。

※以下、「岐阜市サポートブック」を「サポートブック」と省略して記載

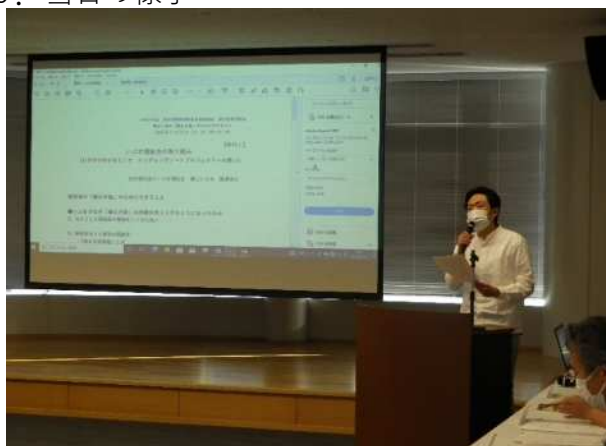
□サポートブックに関する意見

- ・サポートブックについてのさらなる周知が必要。
- ・親は記入することを通して、親亡き後を考えるきっかけになると思う。
- ・保管場所についての取り決めがなされていると良い。
- ・親亡き後に主として誰が活用するか取り決めがなされていると良い。
- ・アプリ版もあると使いやすい。
- ・申請者の状況（緊急時）の書式もサポートブック内にあると良い。
- ・様々な利用者を想定し、項目の細分化や、いくつかの様式があると良い。
(知的障がい以外の障がいや難病、障がい児と障がい者、医療的ケア児・者)
- ・使いやすくするためには、項目が多くなりすぎない方が良い。
- ・個人情報をごどのようにして記載しておくかという課題がある。

□サポートブックに記載すべき内容に関する意見

- ・記入例
- ・具体的な使い方（例えば表紙に記載されていると良い）
- ・本人の年金、資産、生命保険について
- ・障がい者本人のできることで、支援してもらいたいこと、その他本人の想い
- ・親の想い
- ・緊急時に備えた情報
- ・心理テスト等各アセスメント結果
- ・薬の処方箋の貼付欄

6. 当日の様子



7. 当日アンケートの結果

①本日の専門部会について

良かった	… 45.5%
概ね良かった	… 45.5%
普通	… 9.0%
あまり良くなかった	… 0.0%
良くなかった	… 0.0%

②本日の専門部会について（複数回答可）

サポートブックについて理解を深められた	… 42.9%
サポートブックの活用について理解を深められた	… 57.1%
親亡き後の支援体制を考える機会になった	… 71.4%
サポートブックを実際の支援の場で活用できると感じた	… 9.5%
その他	… 9.6%

③本日の専門部会の内容で特に参考になったことについて

- ・ライフステージに合った支援の必要性
- ・当事者団体の方の話
- ・多職種連携の必要性
- ・いぶき福祉会の取り組み
- ・サポートブックの内容を吟味できたこと
- ・サポートブックの重要性
- ・本人と親の意思をノートとして記録しておくことの大切さ
- ・障がいによって必要な支援が変わってくること

④もう少し取り上げたり、掘り下げてほしかった内容について

- ・多機関が集まる場であったため、各機関の現状をさらに共有できると良かった。
- ・親亡き後がテーマなので、成年後見人や入所施設の人と話せると良かった。
- ・サポートブック作成後の活用方法や更新方法について。
- ・親亡き後の前でも、親と一緒に生活できなくなった場合について。
- ・現状のサポートブックを使いやすくするための議論について。
- ・意志表出が十分にできない人の意思をどのようにして記載するか。
- ・自分らしく生活するために必要なことをどのようにして記載するか。
- ・サポートブックのアプリ化について。

⑤その他の意見について

- ・障がい児が早期からサポートブックを活用できるよう、保健師にも伝えておきたい。
- ・教育機関と連携するためにどのように活用できるか知りたい。
- ・障がい分野以外の他職種の意見も参考にするとより良いと思う。
- ・サポートブックがさらに活用されるように周知できると良い。
- ・グループワークの時間が十分にあり、多くの意見を聞いた。
- ・継続して協議が必要なテーマだと思う。